

# 令和5年度なでしこ子ども園自己評価(公表用)

## 評価基準

A かなりできている B ほぼできている C あまりできていない D ほとんどできていない

【共通項目】		対象者 64名(携わっていない項目は未回答有)	評価項目の数字は人数				意見・改善策
項目	番号	内 容	評価				
			A	B	C	D	
社会性・一般常識	2-1	社会福祉法人で働く一員としての自覚を持ち行動している。	30	34	0	0	誰かが電話対応するのを待つのではなく、自ら電話を取るようになっていきたい。  自分自身で体調管理に気をつけて仕事に取り組んでいきたい。 余裕がないと表情や口調に現れるため、日々の業務改善の工夫が大切である。
	2-2	相手に対して目をきちんと合わせ、挨拶や会釈等がきちんとできる。	36	28	0	0	
	2-3	電話が鳴ったら速やかにできるようにしている。用件をメモし、間違えないよう確認や伝達を行っている。	23	26	11	1	
	2-4	周囲の人や来客に清潔感を与える対応や身だしなみを実践している。	28	38	0	0	
	2-5	睡眠や食事を十分にとり、仕事に支障をきたさないよう、規則正しい生活を送っている。	28	33	3	0	
	2-6	体調不良時は速やかに上司に連絡をし、受診や療養をしている。	35	32	1	0	
	2-7	職員としてふさわしい言動をし、さまざまなハラスメントや虐待など職員としてあるまじき行為をしていない。	32	32	0	0	
職員間	2-8	職員間で確認・連絡・報告を行っている。	27	37	0	0	長時間保育の中での連続がスムーズにいくためにも必要な情報を得ることを心がける。
	2-9	上司や同僚とコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。また、後輩が安心して相談できるよう心掛けている。	23	41	0	0	職員間の年齢差があっても話しやすい雰囲気大切である
	2-10	先入観・偏見・固定観念を持たずに相手の話を聞いている。	21	42	0	0	柔軟な考え方が不足しているので、前例ありきではなく取り組んでい
	2-11	分からないことがあった場合や、判断に迷うことがあったら、確認をしている。また、困った時は互いに援助することができる。	30	34	0	0	行事企画担当者を増やすことが業務の負担分散と経験に繋がると思う。
	2-12	職務分掌に基づき、担当業務を遂行している。	21	41	0	0	実態に合わせる余裕がなく、前例の通りになってしまった点があった。
	2-13	「前例」や「慣例」にとらわれずに、現状に応じて柔軟に業務を改善している。	12	42	9	0	年代により、指導の仕方や互いの考え方の相違があるので、連携を取りながら進めていきたい。
	2-14	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言をし、施設の運営に関わっている。	10	48	1	0	会議の持ち方を工夫していきたい。
	2-15	各種会議、打ち合わせを適切かつ効率的に行っている。	12	38	5	0	
2-16	昨年度の自己評価の結果をふまえ、今年度に取り組む重点事項について確認し、取り組んできた。	11	36	6	0		

【教育・保育】 対象者 64名(携わっていない項目は未回答有)		評価項目の数字は人数				意見・改善策	
項目	番号	内 容	評価				
			A	B	C		D
標 教 育 ・ 保 育 目	3-1	入園している子どもの最善の利益を考慮して保育にあっている。	17	34	0	0	子どもにとって何が良いかという視点を、忘れないようにしていきたい。 掲示をしているが、あまり見ていないので意識していく。
	3-2	建学の精神、教育・保育目標を理解している。	10	36	4	0	
	3-3	認定こども園教育・保育要領及び園の教育・保育目標に基づき、園の全体的な計画を作成している。	6	24	5	0	
教 育 ・ 保 育 に つ い て	3-4	子どもの自発性や発想を大切にし、子どもが主体的に活動できるよう適切な援助や環境構成を心がけている。	9	39	0	0	主体的な活動と集団生活の狭間で悩むことがある。 個に合わせた保育を取り入れながらも、集団を導いていく工夫をしていく必要がある。 互いに共有したり相談したりできるよう、時間の使い方やコミュニケーションの仕方を工夫したい。 自己の仕事について、客観的に見て反省するということに課題を感じる。 保育の評価の時間をしっかり取り、向上していきたい。 子ども一人一人の記録を確認し、子ども理解に努めたい 0,1歳児は3グループ制にしたので、職員間で時間を設け、子どもの情報共有をするよう努めた。 季節にちなんだ戸外遊びがあまりできなかった。 不適切な言動を見かけたら、改善できる体制にしていきたい。 子どもに対し先入観や偏見で捉えずに子どもの思いを大切に、願いを持ち保育していきたい。 教育時間中の子どもの様子を聞き、その情報を共有し午後も事故なく過ごせるよう心がけている。
	3-5	個々の発達の姿や課題について理解し、見通しを持って教育・保育を行っている。	8	40	3	0	
	3-6	その日あった出来事や気になる子どもの様子などを、他の職員と情報共有している。	26	25	1	0	
	3-7	自分の保育について自己課題を持って、評価反省を行い、次の保育に活かしている。	8	33	7	0	
	3-8	行事について計画・実施・評価・改善を行っている。	4	33	3	0	
	3-9	子どもの日々の視診や保護者からの連絡で健康状態を把握し、個々に合わせて保育を行っている。	20	27	1	0	
	3-10	健康診断の結果やアレルギー疾患や慢性疾患のある子どもへの適切な対応をとっている。	22	23	1	0	
	3-11	安全で清潔な環境を整え、楽しい雰囲気の中で遊ぶことができるようにしている。	22	29	0	0	
	3-12	園庭や身の回りの自然物を活用し、季節の変化に応じた環境の構成をしている。	11	26	7	0	
	3-13	創意工夫を惜まず、喜びや意欲をもって保育をしている。	12	34	4	0	
	3-14	保育者は子どもにとって最も身近な人的環境であるとともに、すべての言動が、子どもにとってモデルになっていることを意識している。	11	39	1	0	
	3-15	子どもの思いや考えに共感しながら、一緒に活動している。また、子どものありのままの姿を受け入れその子の良さをも認めるようにしている。	22	30	1	0	
	3-16	在園時間が異なる多様な子どもがいることを踏まえ、子どもの生活が安定するよう、環境を整備し、生活の連続性を確保し、一日の生活リズムを整えるようにしている。	13	34	2	0	

特別支援	3-17	特別な支援が必要な子どもの実態について把握し、職員間で連携を図り子どもや保護者に対して適切に対応している。	9	12	2	0	ケース会議で、支援についてさらに話し合える機会があるとより深められると思う。
	3-18	ケース会議で支援が必要な子どもへの対応について共通理解をしたり、情報の共有を行ったりしている。	12	10	0	0	
食育	3-19	食育計画に基づき、子どもが安心して食事を楽しめるよう食事を提供している。	13	12	1	0	
	3-20	野菜の栽培や収穫、クッキングなどを通し、食育を進めている。	9	8	5	0	
環境・安全	3-21	園内外に危険な箇所がないか、また、子どもが危険な遊び方をしていないか常に気を配っている。	18	17	1	0	保育者がダブルチェックを心がけ安全対策に取り組む。
	3-22	事故や怪我が発生した時は、上司に報告をした後、保護者に連絡を取り、必要に応じて受診するなど、適切な対応をしている。	27	8	0	0	
	3-23	子ども自身が危険に気付いて行動できるよう、安全についての心構えや約束を日頃から行っている。	18	15	3	0	
	3-24	清掃や整理整頓、換気、採光、室温、湿度に気を配っている。	22	15	1	0	
	3-25	クラスの枠にとらわれず、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応を行っている。	17	13	3	0	
情報について	3-26	保育に関する様々な新しい情報を自ら獲得し、そのことを自分の保育に活かせるようにしている。	5	14	6	0	園で購読している保育雑誌等も更に活用していきたい。 保育に関する新しい情報を得たときは保育者同士で話し合い保育に活かしている。 ホームページがさらに充実していくようにしていきたい
	3-27	園に関する情報を園だよりやホームページ等で伝えている。	13	10	1	2	
	3-28	日誌や出席簿等の書類を適正に記入している。また、職務上知り得た個人情報の守秘義務を遵守している。	21	9	0	0	
	3-29	締切のある仕事や提出物は締切日を守っている。	24	16	1	0	
保護者支援	3-30	子どもの様子や日々の保育内容などの説明や見える化を図り、保護者との相互理解を図るよう努めている。	7	11	4	0	園開放やサークルの様子、園の活動の発信を更に進めたい。 普段の保育の様子の写真掲示の回数を増やしていきたい 保護者と話す機会をさらに持ちたい。 バス通園の保護者とのコミュニケーションの取り方を工夫していきたい。
	3-31	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	9	13	1	0	
	3-32	保護者からの相談や苦情、さらに虐待が疑われる様子などがあった場合、上司に報告し、相談をし、解決に結びつくような取り組みをしている。	14	12	1	0	

地域との連携	3-33	身近な自然や地域、社会と関われるような取り組みをしている。	2	7	13	0	コロナが5類に移行したこともあり、地域とのつながりや交流を深めていければと思う。
	3-34	地域の子育て支援のために、地域の相談の窓口となっている。	3	7	11	2	
	3-35	小学校教育への円滑な接続に向け、幼保こ小連携の必要性と対応を理解している。	8	5	4	0	
研修	3-36	研修会に参加したり、自ら専門書を読んだりし、自己研鑽に努めている。	2	8	9	0	研修会に参加したが、自らも勉強し更なる自己研鑽に努めたい
	3-37	学んだことを日常の保育に活かし、子どもの育ちに反映させている。	7	15	1	0	職員会議の時に研修の報告を聞けるので良いと思う。
【食育】 対象者 7名(携わっていない項目は未回答有) 評価項目の数字は人数							
項目	番号	内 容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
食事に関すること	4-1	園における給食の目的を理解している。	2	5	0	0	各クラスの様子を交代で見に行くことにより給食調理に対する考えがさらに深まった。
	4-2	月齢に応じた食事の量や形態(かたさや大きさ等)を理解し、成長を促すことができる。	3	4	0	0	
	4-3	食事習慣や家庭環境などを総合的、多面的に理解している。	1	4	2	0	
	4-4	保育者と子どもの状態を伝えあい、より良い食事をとることができるよう連携を図っている。	1	6	0	0	子ども達に更に食の大切さを知らせていきたい。
	4-5	食品に含まれている栄養成分や体の中の働きを子どもに知らせ、食材への理解を深めることが出来るよう工夫している。	1	6	0	0	
	4-6	旬の食材を知らせ、年中行事と関連付けて食文化に興味を持たせている。	3	4	0	0	研修や所轄庁の監査などで学びが多かった。 作業に入る前のアレルギーについての確認を徹底している。
	4-7	アレルギーに関する園内外の研修への参加や情報収集を行い、知識を高めている。	2	5	0	0	
	4-8	全職員が把握できるよう、食物アレルギーを持つ子どもの情報を共有している。	4	3	0	0	
	4-9	アレルギー除去について保護者と園とで連携を密にし、その対応に相違がないようにしている。	4	2	1	0	